

青山学院大学 vs 東京学芸大学

4月6日(日)
11:30K.O.
足利陸上

近年、1部リーグを経験している両チームだが、昨季はいずれも不本意な結果に終わっている。1部経験のある学年がいるうちに、昇格を成し遂げたい2チームだ。

昨季は昇格レースに乗り切れず、5位にとどまった青学大。アグレッシブなサッカーを目指しながら、その副産物として失点数リーグワースト2位を記録した前年の反省を踏まえ、結果にもこだわったシーズン。失点は格段に減ったが上位3チームに一度も勝利できず、2年連続で昇格には手が届かなかった。7引き分けと勝ち切れず、内容と結果が伴わないもどかしさを感じる試合も多かった。「ボールを持てても、もっとゴールに貪欲に、複数で攻めることを考えなければ」と宮崎純一監督。今季は、昨季リーグ新人賞に輝いたMF伊藤光輝(2年)をはじめ、後半戦は最前線で攻撃を引っ張ったMF後藤拓斗(4年)ら経験者が多く残り、“人々の心に残るサッカー”を目指しつつ、改めて1部昇格を狙いたい。

対する東学大は、1年で1部から降格してきた昨季、まさかの8位という成績に終わった。最上級生に多くのタレントを擁し、個人技ではリーグ1・2を争うとの前評判であったが、前期だけで18失点という出遅れが響き、昇格争いに絡めないまま悔しいシーズンを終えた。

その悔しさを反映し、今年に懸ける意気込みを「覚悟」というチームスローガンに込めた。また、1部リーグ所属の2007年まで監督を務めていた檜山康氏を新監督に迎え心機一転も図る。「攻守にわたりアグレッシブなサッカーを志向したい」という新監督の手腕にも期待。複数のタレントは抜けたが、今季の4年生の顔ぶれも実力者揃いだけに、上位を争う可能性は高いはずだ。

<昨年の対戦>前期/青学大1-0東学大、後期/青学大0-1東学大

青学大				東学大			
6. 服部	10. 関谷	3. 御牧	18. 中島	11. 五十嵐	5. 廣木	4. 脇本	1. 須賀
1. 高橋	8. 後藤	14. 伊藤	19. 原之園	9. 山田	14. 平田	8. 菅	21. 安藤
5. 京谷	7. 荒木	2. 堤		10. 佐々木	7. 佐藤	16. 富澤	

東京農業大学 vs 法政大学

4月6日(日)
13:50K.O.
足利陸上

昨季、3年ぶりに東京都リーグから関東2部に復帰した東農大と、1部から降格後、早くも4年目のシーズンを迎えることとなった法大。気持ちも新たに迎える今季、どちらも好スタートを切りたい。

復帰1年目のシーズン、堅守速攻と豊富な運動量を武器に、一時は3位まで浮上する健闘を見せた東農大。前線では技術のある選手、決定力の高い選手がおり、速攻からの鮮やかな得点も記憶に多い。悔しい降格と、苦しい都リーグでの2年間を耐えてきた学年が引っ張り、6位という上位グループで終えた成績は堂々たるものであった。秋吉保浩監督も「3年ぶりの関東リーグは長かったが、その中で選手が成長できた。勝つことによる成長の度合いが大きかった」と話す。今季は、昨季多くの経験を積んだ下級生たちが、今度は“1部昇格”を視野に入れて戦う。ベースには昨季同様、運動量とハードワークという武器があるはずだ。

一方の法大は、7年ぶりに1部から降格してきて早3年。4位、3位、そして昨季は7位と、2部リーグにおいて成績を残せないシーズンが続いている。技術力の高い選手を抱え、実力的には高い評価を受けながら、試合で発揮できないのがゆさが続いている。ポジション能

力はあるが決定力に欠け、リーグワースト3位の39という失点数が示すように、守備面での淡泊さが課題であった。それでも、昨季は久々に総理大臣杯に出場するなど明るい兆しも見え始めた。今季は“原点復帰”を目指し、OBである長山一也新監督を迎えて新たなチャレンジの1年となる。1部を知らない学年だけになった今季。フレッシュな気持ちで挑めるかどうか。

<昨年の対戦>前期/東農大1-0法大、後期/東農大0-3法大

東農大				法大			
3. 加藤	13. 岡庭	5. 櫻岡	7. 和氣	11. 安藤	6. 星	3. 宗近	4. 清水
1. 矢口	14. 石川	6. 大関	29. 村山	9. 相馬	1. 四宮	10. 高橋	5. 山口
	15. 小田原	11. 井上		7. 松田	8. 三田	13. 藤本	
	2. 中西						

第1節の予想布陣はリーグパンフレットを参考に作成しています

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.1

編集：五味亜矢子 印刷：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



熾烈な戦い、2部リーグが開幕!

待ちに待った大学サッカーシーズンが到来、JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグが開幕する。昨季は、関東リーグ昇格 1 年目の東京国際大学が開幕 8 連勝と勢いに乗り、初出場初優勝で勝点も最多タイと記録づくめで初の 1 部昇格、駒大も 3 位以下を引き離し 3 年ぶりの 1 部復帰を決めた。一方、1 部からは 3 年ぶりに日体大が、そして 1 部で結果を出すことができなかった東洋大が 1 年で降格してきた。また、下位に沈んだ東海大と朝鮮大が都府県リーグへ降格。その都府県からは、1 年で復帰してきた日大と、参入決定戦 3 度目の挑戦で悲願の関東リーグ初昇格を決

めた産能大を迎え、12 チームによる 1 部昇格(上位 2 チーム)を賭けた熾烈な戦いがスタートする(下位 2 チームは都府県に自動降格)。

毎年、4 チームの顔ぶれが変わる 2 部リーグ。昇格争いと残留争いのあることが、2 部リーグ最大の醍醐味だ。1 部に定着できなかった日体大・東洋大は再挑戦を目論み、昨季上位 2 チームを優位に走らせてしまった残留 8 チームは今季の主役の座を狙う。昇格組の日大は実績があり、新顔の産能大も、昨季の東国大の例もあるように決して大きな実力差はない。長丁場のリーグ戦、歓喜を迎える 2 チームはどこか!?

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 日程表

順位	2部	日体大	東洋大	関学大	神大	青学大	東農大	法大	東学大	平国大	拓大	日大	産能大	勝数	負数	分数	得点	失点	得失	勝点
	日体大		6/15	5/25	5/11	5/17	5/3	4/26	5/6	4/13	4/20	4/16	4/6	0	0	0	0	0	0	0
	東洋大	日体大G		5/2	5/18	5/25	5/11	4/20	4/12	4/27	5/6	4/6	4/16	0	0	0	0	0	0	0
	関学大	BMWス	横須賀		6/15	5/10	4/13	5/17	4/27	4/16	4/6	5/5	4/19	0	0	0	0	0	0	0
	神大	日体大G	たつのこ	日体大G		4/20	5/6	5/25	5/3	4/6	4/16	4/27	4/13	0	0	0	0	0	0	0
	青学大	青学大G	東洋大G	保土ヶ谷	青学大G		6/14	4/16	4/6	5/3	4/26	4/12	5/6	0	0	0	0	0	0	0
	東農大	保土ヶ谷	日体大G	保土ヶ谷	駒沢陸上	法大G		4/6	4/16	5/24	5/18	4/20	4/26	0	0	0	0	0	0	0
	法大	日体大G	上柚木	青学大G	東洋大G	横須賀	足利陸上		6/14	5/6	4/13	5/11	5/3	0	0	0	0	0	0	0
	東学大	ゼットエー	味スタ西	東洋大G	保土ヶ谷	足利陸上	江戸陸	法大G		4/19	5/10	5/25	5/17	0	0	0	0	0	0	0
	平国大	日体大G	東洋大G	横須賀	川口	味スタ西	千葉東総	千葉東総	産能大G		6/14	5/18	5/11	0	0	0	0	0	0	0
	拓大	青学大G	千葉東総	東洋大G	三ツ沢陸上	日体大G	上柚木	日体大G	たつのこ	産能大G		5/2	5/25	0	0	0	0	0	0	0
	日大	海老名陸上	東洋大G	ゼットエー	三ツ沢陸上	夢の島	上柚木	法大G	産能大G	上柚木	横須賀		6/14	0	0	0	0	0	0	0
	産能大	味スタ西	海老名陸上	産能大G	保土ヶ谷	ゼットエー	古河	BMWス	ゼットエー	法大G	産能大G	産能大G		0	0	0	0	0	0	0

体育会学生のための



あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。



神奈川大学 vs 平成国際大学

4月6日(日)
11:30K.O.
川口

1部からの降格1年目のシーズンを4位で終えた神大と、関東で2年目のシーズンも9位でしのいだ平国大との対戦。昨季は神大の得点力が生きた2戦の結果となっているが、平国大がどこまで抑えられるか。

その神大は昨季、6年ぶりに2部リーグを戦い1年での1部復帰を目指したが、昇格ラインからは勝点10の差をつけられ4位に終わった。実質的に昇格争いにも絡むことができない、屈辱のシーズンだったのではないだろうか。関東初昇格以降、堅守速攻の安定した成績を残してきた神大だが、求める結果がついてこなかったこの2年間は、より攻撃的なサッカーへの過渡期にあるとも言える。昨季、最終的にはFW伊東純也(4年)が2部得点王に輝き、得点数は昇格2チームに次ぐ数字を残している。今季は、昨季の中心選手がほとんど残っているだけに、注目チームの一つであることは間違いない。どれだけ取りこぼしをなくしていくかが鍵を握る。

対する平国大は昨季、7勝9敗6分の9位。関東初挑戦の一昨年に続いて苦しいシーズンではあったが、それでも直接的に残留争いに巻き込まれることもなく、2部で3シーズン目を迎えられることになった。西川誠太監督も、「自分たちの力を考えたらよくやったのではない

か」と一定の評価を与え、「ギリギリの戦いの中で成長できた」と話す。それだけに、3年目となる今季は2部定着への重要なシーズン。突出したタレントがいない中でも、試合終了まで何かを起こしてくれるのではないかと期待感を抱かせてくれるチームだけに、少しずつでも着実に勝点を重ねていきたい。定着、そして上位進出を狙いたい。

<昨年の対戦>前期/神大3-1平国大、後期/神大3-2平国大

神大		平国大	
3. 高木	11. 星	17. 尾林	11. 千葉
4. 藤原	9. 郡司	6. 福嶋	16. 玉田
6. 前田		9. 星子	3. 深井
1. 阿部		1. 荒川	
8. 盛		25. 猪瀬	
5. 杉山	10. 伊東	26. 小松崎	
2. 湯澤		15. 堀越	2. 増田
7. 長野			

関東学院大学 vs 拓殖大学

4月6日(日)
11:30K.O.
東洋大G

苦しんだ関東初挑戦のシーズン以降は上位を争っている関学大と、昨季は好スタートを切ったが10位に終わった拓大との対戦。2部にはしっかり定着した両チームだが、その上を目指すシーズンとなれるか。

昨季3位の関学大。関東2部昇格後、4年間で2度の3位と安定した成績を収めてはいるが、昨季は上位2チームを走らせてしまったの3位だけに、今季も昇格争いから抜け出すためには、より一層の“勝負強さ”が必要だ。昨季は、「評価できる勝点1もあったが、評価できない1もあった」と石村大監督が話したように、6引き分けと勝ち切れない試合もあったが、決して良い内容でなくとも粘り強く勝点を稼ぐ姿勢も目立った。昨季の途中からボランチに転向し、今季も攻守の要、そして主将としてMF土館賢人(4年)がチームを引っ張る。昇格時からの特徴である全員サッカーで、4年間の経験を“結集”して大きな目標を狙っていく。

一方の拓大は、2010年に初の1部を経験したものの、その後は2部で9位、6位、10位と、いま一つ芳しい成績を収められていない。昨季の残留争いでは、最終節の直接対決で“負ければ降格”というところまで追い詰められたものの、2-0で朝鮮大を下し最悪の結果は免

れた。しかし、10位ではありながら得失点差は±0だっただけに、リーグ全体を通して、チーム関係者が「試合運びが下手」と嘆いたのも無理はない。今季は昨季最終節の後の笑顔と涙の意味を忘れることなく、何としても上位争いに食い込みたい。エースストライカーは抜けたが、もともと攻撃力が魅力のチームだけに、少しでも失点を減らして勝点を積み上げていきたい。

<昨年の対戦>前期/関学大2-1拓大、後期/関学大2-2拓大

関学大		拓大	
4. 久保	8. 普光院	2. 谷川	16. 大森
2. 吉田	22. 井上	11. 西岡	6. 紙谷
7. 太田		14. 川崎	
1. 井田		12. 夏井	
10. 土館		8. 菅能	5. 高橋
3. 原島	9. 富樫	27. 森川	7. 片
14. 三橋		4. 小針	
6. 山田			

日本体育大学 vs 産業能率大学

4月6日(日)
11:30K.O.
味スタ西

3年ぶりに2部リーグを戦うこととなった日体大と、関東初昇格の産能大との対戦。1部での経験を持つ日体大を、フレッシュな産能大が苦しめることはできるか。

混戦となった昨季1部の残留争いに敗れ、まさかの2部降格となってしまった日体大。2012年の1部1年目は5位と健闘し、昨季前半戦は3位につけていただけに、わずか1勝(3分)にとどまった後期の低迷は、誰もが驚く11位という成績を招いてしまった。最大の要因は、前年は1部リーグ最少失点を誇ったほど安定していたはずの守備面の崩壊。33という数字は、残留争いでは決して多い失点数ではなかったが、守備の不調が攻撃面にも影響し、攻守のバランスが崩れて巻き返しがきかなくなった。今季は、主将となったDF広瀬健太(4年)を中心に、1年での1部復帰を目指す。1部への定着のチャンスを逃した昨季の悔しさを晴らし、再挑戦の権利を得たい。

対する産能大は昨季、3度目の参入決定戦を制して悲願の関東初昇格を決めた。実力差のある神奈川リーグを圧勝したが、関東大会では予選リーグ同率2位となり、抽選での決定戦進出というラッキーもあった。そして、下馬評の最も高かった明海大との一戦は押し込まれ

るシーンが多かったが、2-2と粘ってPK戦で今日の舞台を勝ち取った。高さや前線のスピードを生かした戦い方を見せたが、独特の雰囲気を持つ参入決定戦とは異なるリーグ戦での実力は未知数。昨季からチームを率いた元Jリーガーの加藤望監督は、「最後まで走り抜くことを特徴にしてきた。2部に食らいついて、さらに上を目指したい」と話す。ニューフェースらしく思い切りの良い、アグレッシブなプレーを期待したい。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大		産能大	
2. 高野	15. 佐藤	2. 浦野	11. 青木
13. 増谷	10. 阿部	25. 渡辺	
23. 小泉		3. 藤原	
1. 伊藤		10. 城本	4. 楠元
4. 桂	7. 長谷川	16. 森谷	
3. 広瀬		12. 齋藤	
11. 小山		20. 斎藤	7. 小池
6. 赤平		6. 遠藤	

東洋大学 vs 日本大学

4月6日(日)
13:50K.O.
東洋大G

1部から降格の東洋大と、東京都リーグから復帰の日大という、2年ぶりの顔合わせ。昨季の経験を生かし、今季の2部リーグで好成績を残せるか。

2012年の2部リーグで圧勝し、初めて1部リーグに挑んだ昨季の東洋大。開幕戦は明大を1-0で破ってセンセーショナルな1部デビューを飾ったものの、その後は苦戦を強いられ、初の挑戦は1年で跳ね返された。前期は3引き分けと1点差での4敗など惜しい内容のゲームも多かったが、ひと言で言えば“勝つことの難しさ”を思い知らされた1年であっただろう。アグレッシブに攻撃することでリスクを減じることができた一昨年と比べ、1部ではわずかな綻びでもすぐに劣勢を招き、大敗はなくとも勝点を積み上げることは難しかった。それでも、経験してきたことは必ず今後へのプラスになるはず。“勝ちにこだわる”ことを目標とする今季は、新たな歴史へのスタートだ。

2010年以降の東京都リーグでの戦いを経て、関東復帰を果たした日大。前回は東京都で実に4シーズンを過ごしてしまっていたが、今回は1年での復帰を達成。一昨年の2部リーグ経験者が多く残るだけに、より遅くなった姿を見せたいところだ。昨季の東京都リーグは同勝点

で得失点差による2位。しかし、関東大会では予選リーグ3戦全勝、参入決定戦は上武大に2-1で勝利した。その試合で負傷したDF奥村一誠(4年)の状態が不安材料ではあるが、MF高橋秀宜(4年)、MF中村雄太(4年)など軸となれる選手がいる。「前回は上がったことで満足してしまっただけで満足してしまっただけ」と意識づけしてきた(川津博一監督)。1部を目指す場なのだという意識改革が、結果につながるか。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大		日大	
3. 筑井	7. 斉藤	5. 鈴木	7. 廣田
4. 郡司	9. 川森	4. 高橋	20. 釣巻
15. 小山		1. 谷	
1. 浅沼		25. 大谷	
14. 小山	10. 平石	14. 成瀬	3. 奥村
5. 田口		6. 中村	2. 長谷川
8. 小島			
16. 石坂			